

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-190	14-141	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)		
A latent growth curve analysis of alcohol-use specific parenting and adolescent alcohol use. 飲酒に関わる躰と若年者の飲酒に関する潜在的成長曲線分析		
執筆者		
Zehe JM, Colder CR.		
掲載誌		
Addict Behav. 2014 Dec;39(12):1701-5. doi: 10.1016/j.addbeh.2014.05.003.		
キーワード		PMID
飲酒、若年者、親、躰		25117845
要 旨		
目的： 本研究は、親による子供の飲酒に関わる躰の変化を長期的に調査し、これらの変化と若年者の飲酒状況との関係について明らかにすることを目的とした。		
方法： 分析には、若年者の薬物使用に関する長期的調査から3年間(毎年調査)のデータを用いた(n=378)。ベースライン時の対象者の年齢は10~13歳(平均年齢11.1歳)で女兒の割合は52%、白人と非ヒスパニック系は70%、2人の養育者と同居している割合は75%、親の学歴が大学以上の者の割合は58%、家庭収入の中央値は6万ドルであった。飲酒状況は対象者の自己申告の飲酒頻度および飲酒量により3段階に分類した。飲酒に対する親の制限、若年者の飲酒を防ぐ親の影響力、飲酒に関する子供との対話、親の許可の下での飲酒を説明変数として潜在的成長曲線分析を行った。		
結果： 調査期間にわたって、親が子供の飲酒に対する制限が緩和され、飲酒を許可するケースが増え、飲酒の重大性について対話をするのが減る傾向が認められた。さらに、このような変化は若年者の飲酒の増加と関連していた。		
結論： 飲酒に対する親の制限は子供の成長に伴い緩和され、飲酒の機会が増えるものと考えられる。また、親が飲酒に関して子供と対話することは、子供に飲酒の悪影響を認識させ、若年者の飲酒を減らす良い方法である。		